

厚生労働省の定める水質基準にも適合し、その高い能力と安全性が確認されています。

油分溶解力測定試験結果

原水の水道水と「光水CR-500MS」処理水の各1ℓをそれぞれ分注ロートに取り、これに食用ラジラジ油各10㎖添加し3分攪拌した。5分静置後、水相分を800㎖分取し、ヘキサン抽出分析法（JIS K0102）に準拠して測定した。油分溶解力の測定は各3回行った。

試験条件 ■水温: 10℃ ■室温: 22~24℃
■pH: 7.5

<表> 原水と処理水の油分溶解力測定結果 (g/ℓ)

試料	前測	1	2	3	平均
原水 (a)		2.04	2.12	1.96	—
処理水 (b)		2.22	2.42	2.37	—
b/a		1.09	1.14	1.21	1.15
流量 (ℓ/min)		20.0	20.0	19.0	—

試験結果 <表>に原水の水道水と処理水の油分溶解力の測定結果を示した。原水の水道水に比べ、処理水では油分溶解力が測定平均で15%強、向上している。

※[注釈]本試験は、日本工業規格（JIS K0102）に準拠したヘキサン抽出分析法による測定試験の為、他社製品の測定結果数値と比較できない場合があります。

酸化還元電位 [ORP] の測定結果 (mV)

分析試験項目 (試験方法)	水道水	透過水	還元電位
酸化還元電位 #1 (25℃vs/NHE)	+740	+290	-450
酸化還元電位 #2 (25℃vs/Ag/AgCl)	+540	+80	-480

※1/標準水素電極を比較電極とした酸化還元電位

※2/3.33mol/L KCl-Ag/AgClを比較電極とした酸化還元電位

※数値が低いほど還元力があることを示します。

透過水の水道水水質基準試験結果 (厚生労働省令第101号の水質測定)

分析試験項目	基準	結果		検出限界
		水道水	透過水	
一般細菌	集落数100以下/mL	30以下/mL	30以下/mL	—
大腸菌	検出されない	検出せず	検出せず	—
鉛及びその化合物	0.01mg/L以下	検出せず	検出せず	0.001mg/L
亜鉛	1.0mg/L以下	検出せず	検出せず	0.01mg/L
銅及びその化合物	0.3mg/L以下	検出せず	検出せず	0.03mg/L
亜鉛及びその化合物	1.0mg/L以下	検出せず	検出せず	0.01mg/L
塩化物イオン	200mg/L以下	15mg/L	15mg/L	—
鉄及びその化合物	0.3mg/L以下	検出せず	検出せず	—
銅及びその化合物	1.0mg/L以下	検出せず	検出せず	0.01mg/L
有機物イオン	500mg/L以下	120mg/L	120mg/L	—
有機物 (全有機炭素 (TOC) の量)	5mg/L以下	0.8mg/L	0.3mg/L	—
pH値	5.8以上8.6以下	7.6 (17℃)	7.5 (18℃)	—
味	検出されない	異常なし	異常なし	—
臭気	異常でない	異常なし	異常なし	—
色度	5度以下	1度以下	1度以下	—
濁度	2度以下	1度以下	1度以下	—

透過水の水質試験結果 (水質管理目標設定項目の検査方法)

分析試験項目	結果		検出限界
	水道水	透過水	
残留塩素	0.40mg/L	検出せず	0.05mg/L
トリハロメタン	0.017mg/L	検出せず	0.0005mg/L
クロロホルム	0.0074mg/L	検出せず	0.0005mg/L
ブロモクロロメタン	0.0065mg/L	検出せず	0.0005mg/L
ジブロモクロロメタン	0.0033mg/L	検出せず	0.0005mg/L
ブロモホルム	検出せず	検出せず	0.0005mg/L

(※) 日本食品分析センター 第5070-00039号

※掲載の試験結果は、カートリッジ (IC-225型) の浄水能力の試験結果であり、実際に使用する水質環境により、本試験結果の数値とは異なります。



厚生労働省の定める
給水装置品として
水道法基準に
適合しています。

耐圧性能試験

JIS S 3200-1

水道用器具-耐圧性能試験方法による

試験結果

1.75MPaの静水圧を1分間加え、水漏れ・変形・破損等の異常なし

浸出性能試験

JIS S 3200-7

水道用器具-浸出性能試験方法による

試験結果

省令第2条第1項に規定する基準に適合

逆流防止性能試験

JIS S 3200-4

水道用器具-逆流防止性能試験方法による

試験結果

3kPa及び1.5MPaの静水圧を1分間加え、水漏れ・変形・破損、その他の異常なし

